

知的障害教育における 単元作成プロセスと 学習評価について

福島県立相馬支援学校 相原聖美

福島県立相馬支援学校



福島県の沿岸部にある
知的障がい教育を主とする
特別支援学校

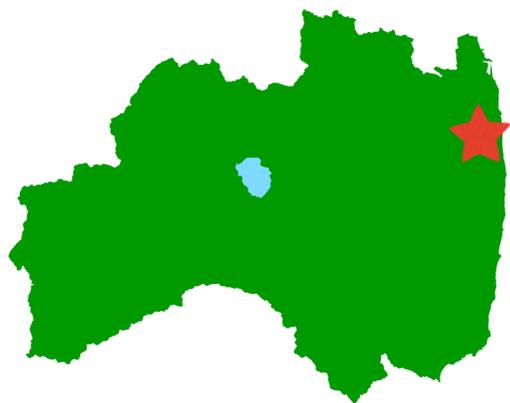
小学部 33名

中学部 24名

高等部 51名

全児童生徒数 108名

職員数 74名



単元作成プロセスについて

【学習指導要領で示されている単元づくりで押さえるべき点】

- ① 本校の育みたい資質・能力から、教科等の資質・能力へのつながり。
- ② 単元における育む資質能力の明確化
- ③ 単元における評価規準と評価計画(いつ、どの資質・能力を育ていくのか。)
- ④ 授業改善の視点(主体的・対話的で深い学びの単元構想における意図的な設定)
- ⑤ 子どもたちの学びの過程(習得・活用・探究)をデザイン
- ⑥ 単元間のつながり(教科内、教科間)
- ⑦ 教科等横断的な視点に立った資質・能力を育む視点
- ⑧ 「何が身に付いたのか」観点別学習状況の評価と授業改善



単元案

相馬支援学校 単元案

本校の学校教育目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、探究し、問題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぶとする力
小学部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
身近な生活で扱う基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、次々と一歩に問題を解決していく力	自ら学ぶとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

(生活単元学習) 単元案 単元・題材名 「はるをさがそう」

【単元・題材での目標】

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活科	<p>〔1段階〕活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の神聖に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。</p> <p>〔2段階〕活動や体験の過程において、自分自身、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</p>	<p>〔1段階〕自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。</p> <p>〔2段階〕自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。</p>	<p>〔1段階〕自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。</p> <p>〔2段階〕自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとして、意欲や自身をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。</p>

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部） 生活科1冊時 社会・自然

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	<p>〔1段階〕身の回りの自然に触れ、四季の神聖や自然について関心をもって学んでいる。</p> <p>〔2段階〕身近な自然や自然について知ることができる。</p>	<p>〔1段階〕身の回りにおける自然や四季の神聖に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとしている。</p> <p>〔2段階〕身近な自然や自然の神聖や変化が分かり、それらを表現しようとしている。</p>	<p>身近な神社や公園の自然に触れる活動を通して、身近な自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。</p>

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
国語科	<p>〔1段階〕日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言葉ムンかに触れることができるようになる。</p> <p>〔2段階〕日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言葉文化に触れることができるようになる。</p>	<p>〔1段階〕言葉によるイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。</p> <p>〔2段階〕言葉が表す事柄を想像したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようになる。</p>	<p>〔1段階〕言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使うとする態度を養う。</p> <p>〔2段階〕言葉がもつよさを感じるとともに、関わりあいに喜び、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。</p>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	<p>〔1段階〕身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを感じている。ア(イ)。</p> <p>〔2段階〕身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の循環に触れている。ア(ウ)。</p>	<p>〔1段階〕「聞くこと・話すこと」において、身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えようとしている。ア(イ)。</p> <p>〔2段階〕「聞くこと・話すこと」において、身近な人の話し掛け、簡単な事柄と発音などを学び付けたり、発音などから事柄を思い浮かべたりしようとしている。アア。</p>	<p>教師や友達とのやり取りを通して進んで言葉による表現に慣れ、自然に触れた内容を生かして事柄と発音を結び付けたり、発音から事柄を思い浮かべたりしようとしている。</p>

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
図工科	<p>〔1段階〕形や色などに気付き、材料や用具を使うようにする。</p> <p>〔2段階〕形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。</p>	<p>〔1段階〕表したいことを思い浮かべたり、作ることができるようにする。</p> <p>〔2段階〕表したいことや、作らなさを感ぜられるようにする。</p>	<p>〔1段階〕進んで表した。</p>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	<p>〔1段階〕自分が感じたことややったことを通して、形や色などについて気付けている。</p> <p>・身の回りの自然物などに触れながら、見る、にち、はるなどしている。</p> <p>〔2段階〕自分が感じたことややったことを通して、形や色などの違いについて気付けている。</p> <p>・身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくらせている。</p>	<p>〔1段階〕形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料や、感ぜたいことを思い付けている。</p> <p>〔2段階〕形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料や、感ぜたいこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付けている。</p>	<p>つくりだすことの楽しさに気付き進んで表す学習活動に取り組もうとしている。</p>

単元評価のためのメモ帳

・4/1 2①② (秋と冬を振り返ろう。事には何がある?)、1 3① (室内探検神社で夢を語ろう)、1 3② (見つけたものなまに?)、1 4 (見つけたものなまに?)、1 8① (放物で夢を語ろう)、1 8② (見つけたものなまに?)、2 0①② (さくらホールで夢を語ろう) 2 1 (見つけたものなまに?)、2 8 (夢をあらわしてみよう①)、2 8 (夢を表してみよう②)、2 8 (夢の発表会をしよう)・・・1 2②

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基礎となる資質・能力	現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力	相馬支援学校ならではの力
<p>言語能力</p> <p>情報活用能力</p> <p>問題発見・解決能力</p>	<p>地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成</p> <p>生活力や地域力の育成</p> <p>感染症、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成</p>	<p>自己理解・自己実現の育成</p>

単元案の作成

【単元・題材で育成する資質・能力】 主に小学部2段階で設定

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活科	活動や体験の過程において、自分自身、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	自分のことに取り組もうとしたり、社会及び自然と関わりかけようとし、思ひや自身をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。

各教科等を合わせた指導として、
合わせている教科等の資質・能力、
評価規準を全て明確にする。

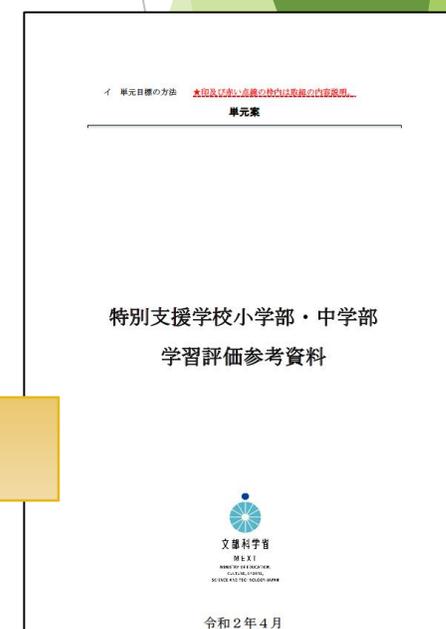
★ 段階の目標を達成するために、
どんな資質・能力を育成
するものかを明確にする。

特別支援学校

生命・自然

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
内容の まとめり ごとの 評価規準	身近な生命や自然について知ることができる。	身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとしている。	自然の中での活動を通して、身近な自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする。

★ 令和2年4月文部科学省から示された「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」(*以下学習評価参考資料とする。)に基づいて、単元で育む資質・能力の具体的な評価規準を設定する。



単元案の作成

④ 授業計画（単元構想：「何を、いつ、どのように」育んでいくのか）

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基盤となる資質・能力			現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力		校ならではの力
言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	地域で起こる災害等の緊急時の対応力の育成	生活力や地域力の育成	自己理解・自己実現の育成

★
教科等の枠を越えて育成を目指す資質・能力について、何を育むのか明確にして指導する。

教科等横断的な視点に立った資質・能力について

「何を、いつ、どのように」育んでいくのか

展開	教科	知・技	基・関・興	主	横断
第一夜	生活	○	○		●○何を学ぶか【各教科等の学習活動】 【どのように学ぶか】 *主：対：深（主体的・対話的で深い学びの設定） *習得・活用・探究（学びの過程を考える）
	国語	○	○		
第二夜	生活	○	○		4/12(2h) ●はるにはなにがあるかな？ ○春に関心をもったり、秋冬と春を比較して四季の特徴に気づいたりすることが★ 春から連想 子どものように学ぶのか、知的障害の特性に応じた主体的で対話的で深い学びについて、単元構想の時に設定していく。 【国】 子どものや季節の特徴を表す言葉に親しむことができるようにする。
	国語		○		
	* 自立活動（個々）				
	4/13②, 14, 18②, 20②, 21(7h) ●はるをさがそう ○校庭や身近な公園に行き、自然に触れ、春の特徴や自然に関心をもつことができる。○探した春のものと語句を結びつけたり、事例を思い浮かべたりし、それらをみんなに伝えようとするができる。【生】国：校庭や地域の公園に行き、自然に触れ、春から連想したものや春を感じたものを実感し、自己のキャリア（経験）と関連させて学ぶことができる場を設定する。【生】【国】対：先生や友だちの集めたものを見たり聞いたりし、自分の考えの幅を広げ、同じものを探そうとしたりすることができる。 【国】主対：デジタルカメラで写真を撮ったり、見つけたものを話したり文字に書いたりして先生や友だちに伝えたり、友達のことを見たりする場を設定する。				

教科等の特質に応じた子どもの学びの過程（習得・活用・探究）を考え、単元構想していく。

学びの過程（習得・活用・探究）

どのように学ぶのか（主体的・対話的・深い学び）

評価計画

★
どの時期に、どの教科の資質・能力を育むのか、評価計画を明確にする。

習得

活用

探究

実践報告 生活単元学習「はるをさがそう」



単元設定の理由

生活

4月の花や生き物が活発化して効果的に学ぶことができる時期

生活単元学習
「はるをさがそう」

国語

花や生き物の散策を通して、実際に見たことから、想像したり、感じたりしたいことを描き表しやすく効果的

図画工作

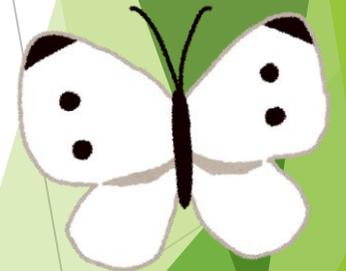
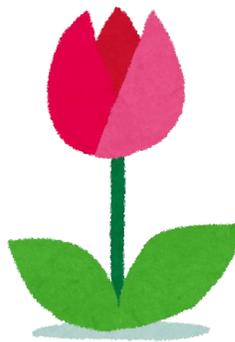
花や生き物散策を通して、様々な事物や言葉の種類に触れる機会があり、児童の主体的な学びの場として設定しやすく指導が効果的

実践紹介

〈第1次〉はるにはなにがあるかな？

【生活】【国語】

- 春に関する事柄を思い浮かべる。
- 春から連想される身近な植物や歌を思いついたり、1年生で学習した秋冬を振り返ったりする。
- 1年生で学習した秋冬のものを振り返り、春に関する生きものや季節の特徴を表す言葉に親しむ。



〈第2次〉はるをさがそう

【生活】【国語】

○校庭や地域の公園に行き、自然に触れ、春から連想したものや春を感じたものを実感し、自己のキャリア(経験)と関連させる。

○デジタルカメラで写真を撮ったり、見つけたものを話したり文字に書いたりして先生や友だちに伝えたり、友達の考えを見たりする。



〈第3次〉はるのてんらんかいをしよう

【図工】【国語】

○見つけた春の植物などから春のイメージの色を表す。

○春の展覧会で、春のイメージをもちながら作った製作物を見せたり、見つけた春を伝える。



学習評価について

評価規準に従って、観点別に学習評価する。具体的な場面を想定して授業をすることで学びを見取ることができた。

具体的な学びの姿をイメージして指導と評価を一体化。

学習評価を行うことで、子どもの学びを明確に捉えることができ、教師が授業をする楽しさや面白さを実感。

①・自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いについて気付いている。
・身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりしている。
②形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付いている。
③つくりだすことの楽しさに気づき進んで表す学習活動に取り組もうとしている。

★ 学習評価をすることで、子どもの学び、教師の実感を

くらホールや鶯内稲荷神社、校庭などで春を探しに行き、見つけた春のものから「カエル」「アリ」を選び、カエルは緑色、アリは黒を選んで、たんぼや指を使って表現することができた。
②カエルを選び「大好き。」(最後の方で見つけて、ずっと触って袋に入れて持ち帰ってきた。)、アリを選んで「いーっぱい。」(巣の中からたくさん出てきたところをたくさん眺めていた)と言っていた。はじめにカエル(緑)を描き、そのあと、アリ(黒)がどんどんカエルの上を覆っていく！「あり、いっぱい！」と言いつつ、巣からアリが出てくるところ、とまでは明確に言えないが、目で見ただくさんのありを自分の表したいものとして表すことができた！お見事！！
③この単元のBはものすごかった！表したいものが明確！1枚の絵の中にストーリーを持たせることができた。思いの詰まったものである。



学習評価①

生活科

巣をつつくと、アリがたくさん出てきた！
「アリ！いっぱいーい！」



生活科

- ①身近な生命や自然について知ることができる。←
- ②身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとしている。←
- ③身近な神社や公園の自然に触れる活動を通して、身近な自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。←



- ①校庭や鷺内稲荷神社、さくらホールへ向かい探検カードにある春の生き物を探すことができた。←
- ②お気に入りの春を描く中で、アリの巣をつついてありがたくさん出てきた様子を描いており、アリの行動の様子をわかって表現しようとしていた。（こういう姿は、図工と生活、どちらでも表現できるのだが OK なのかな？生活も表現するのが肝なのよな。）←
- ③特に、見つけたありとカエルは大のお気に入り、カエルは袋に入れて持ち帰るほどであった。休み時間にふれあいコートでカエルを見つけると「カエル！」と教師を呼んで見せる姿が見られ、身近な生き物への関心が高まった様子が見られた。←

見つけたカエルを、大事に持ち帰る。
休み時間に他のカエルを見つけて教師に伝える。

身近な生命への関心の高まり

学習評価② 図画工作科

お気に入りの春に「アリ」と「カエル」を選ぶ。



まず「カエル」をたんぽでかく。



まさに、図工の思・判・表「自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したことから表したいものを思い付い」ていた！

- ①・自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いについて気付いている。←
・身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりしている。←
- ②形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付いている。←
- ③つくりだすことの楽しさに気付き進んで表す学習活動に取り組もうとしている。←



- ①さくらホールや鶯内稲荷神社、校庭などで春を探しに行き、見つけた春のものから「かえる」「アリ」を選び、かえるは緑色、ありは黒を選んで、たんぽや指を使って表現することができた。←
- ②かえるを選び「大好き」（最後の方で見つけて、ずっと触って袋に入れて持ち帰ってきた。）、ありを選んで「いっぱい」（巣の中からたくさん出てきたところをたくさん眺めていた）と言っていた。はじめにカエル（緑）を描き、そのあと、あり（黒）がどんどんどんどんカエルの上を覆って行く！「あり、いっぱい！」と言いながら！！巣からありが出てくるころ、とまでは明確に言えないが、目で見たたくさんのありを自分の表したいものとして表すことができた！お見事！！←
- ③この単元のDはものすごかった！表したいものが明確！1枚の絵の中にストーリーを持たせることができた。思いの詰まった絵である。（この単元からDの表現活動はかなり活発になったと思う。「イメージ→表現」ができる！）←



「アリ！アリ、いっぱいーい！」と言いながら、黒がどんどん緑を覆って行く！



<単元作成のプロセスと 学習評価をして気付いたこと>

- 指導と評価の一体化について実践から多くの知見を得て、次の授業改善、単元作りに生かすことができた。
- 学習評価を行っていくことで、子どもの学びの瞬間と一緒に味わうことができた。授業者もその喜びから、「あの瞬間、～に感動した。」という授業の子ども達の学びを教員同士が伝え合う機会も増えてきた。
- 「次の単元でも同じように感動を味わってみたい」という好サイクルが生まれ、授業への向き合い方、働き方の変化にもつながってきている。



ご静聴いただきありがとうございました

